

名物先生

題字 2年6組 堤内真弥



山並兼武先生

天中十八回卒 倉岳町宮田出身

エピソード

- 昭和35年 国体が熊本県で開催された時、高松宮殿下が天草高校を訪問して言われたこと。運動場が日本一綺麗だ。当時グラウンド真ん中のフィールドは芝生で覆われていた。名校長あれば名教師あり。名物先生 山並兼武先生 天草中学卒業後、日本体操会体育学校高等科(現日本体育大学)に進む。「運動場は体育の教室だ」「わたしは、車は車でも人力車の免許を持つ」と愉快に話す。昭和21年から45年まで(25年間)母校の体育教師として後輩の面倒を見ることとなる。「逆立ちの山並」として、名声を博し 蘭市場(現リンドモールTAYYO)の煙突上での逆立ちは現在も伝説的な話題となっている。「私は掃除係の山並です」毎朝、始業前(職員、生徒の登校時間前)に箒と塵取りを手に校内巡視することが日課だった。不言実行の人でもあり、山並に近づきたいと努力した青年教師も多い。昭和23年頃から母校の為に何か仕事をしなくてはならないと思ひ、二つのことを徹底的に心に決め始めた。第一に環境整備。第二に天高に体操競技部を創設し天高の体操競技を日本の水準に引き上げる。毎年のように国体、インターハイと全国大会出場を果たし天高体操部の黄金期を築いた。当人も46歳時クライミング・ロープの日本選手権者。50歳時日本記録。昭和42年には文部大臣特別教育功労賞を受賞。

特に第一の環境整備では清潔で手入れの行き届いた学校環境は、必ずや生徒の心身の健全育成に無言の力を与えてくれるであろうことを期待し、校舎は粗末でも、設備は不十分でも、清潔に行き届いた点においては、日本一の学校にしてみたいと心に決めた。口先の人となるより実践の人となることの大切さを思い続けた。やがて時間は経つが、天草高校は日本一になっていく。学校生活を通じて、生徒諸君は知識、技術を身につけると同時にその学舎、風景、人物、歴史から教育的感化を受け、やがてその学校に学んだことよって将来長きにわたって自身を律し品性を保つことができる。山並精神が天高の現役諸君に受け継がれることを願う。本当に世の中変えるのは権力や富ではなく、一人ひとりの目立たない粘り強い無償の行為だ。大正8年に制定された本校綱領に「智徳ヲ涵養シ 身体ヲ鍛錬シ 国家有用ノ材タルコトヲ期スベシ」とある。自己の利益を追求するのではなく、世のため人のために尽くす人材を輩出するのが我が天高の使命だ。文は、「二万日の男 山並兼武の生涯」上妻利博編著より引用しました。文化広報部 池崎修治



山並先生が考案され今も活躍する「山並式くわ」

インタビュー

天草高校 売店 有限会社 おかべ学盛堂 4代目 岡部多苗さん

天高とともに百十六年

天草高校卒業 東京の某国立女子大卒業 題字 2年2組 山田哲平

創業は明治13年。熊本県立済々學高校天草分校内の売店として明治29年4月創設。店舗のスペースはほぼ同じ。天草で最初の文房具店で、昔は剣道着やテニスネットも販売していたそうです。熊本県下で最初にコカコーラ自動販売機が設置されたそうです。(昭和46年頃) 売店の売れ筋商品は何ですか。 ①チョコメロンパン ②アピカのノート ③パイロットのボールペン お店を継続していくことで、最も大事にしていることはなんですか。 利益よりも生徒、先生とのつながりを大事にすること。生徒と話すこと。相談相手であること。昔の生徒と今の生徒の感じって、何か違いがありますか。 以前は3年クールで変わっていたと感じていました。現在は1年クールで変わっていく感じがしています。昔は自主的に「何か手伝いますー?」「もう少し他にすることはないですか。」とやっていました。今の生徒に対して何か期待したいことがありますか。 岡部多苗さんの健康法は? 青竹踏み 仕事の合間に踏んできます。 売店の中に置いてありました。これにも歴史がにじみ出ています。竹なので人生の節目を感じます。



取材中も、生徒・先生・職員の方がひっきりなしに売店に来られお忙しい中笑顔でお話ししてもらいました。「こういう取材は初めてです。なにか嬉しくなってきました。」と岡部さん。「今日、明日への元気が出てきました。」と感想をいただきました。 天草高校育友会文化広報部

あつという間の一日

2年2組

松下 絵里



担当(高等部 窯業班)

先日、「天草支援学校であいふれあいフェスタ」のボランティアスタッフとして参加して来ました。私は、窯業班で販売や呼び込みのお手伝いをしたり、支援学校の友達と一緒にバザー販売所を見て回ったりしました。

天草支援学校は、私の住んでいる地域でもあり、小、中学校の頃から交流を深めてきた所でもあります。友達との久しぶりの再会を果たし、うれしき反面接し方に戸惑うこともありましたが、友達はみんな元気で明るく、純粋な人ばかりなので、私の戸惑いをいつの間にか吹き飛ばしてくれていました。あつという間の一日でした。久しぶりに友達とふれあうこともでき今回のボランティアは私にとっても有意義なものになりました。

天草支援学校

であいふれあいフェスタ



ボランティア活動報告

10月21日(日)

自然と笑顔が溢れてきました

3年7組

花田 未来



担当(ステージ)

私が天草支援学校のボランティア活動に参加させていただいたのは今回で二度目でした。一度目は、5月に行われた運動会に参加し、来賓接待や放送を担当しました。今回のふれあいフェスタでは、多くの児童、生徒さんと一緒に手をつないで踊ったり、話をしたりと直接ふれあう機会がありました。一緒に踊りながら、一人ひとりがとても楽しんでる様子が伝わってきて、私も自然と笑顔が溢れてきました。

私は今まで、ボランティア活動は「大変」「きつい」と考えていましたが、体験してみると、周りの方々から感謝の言葉をいただき、人に喜んでもらえることがうれしくなり、いつの間にか楽しんで取り組んでいました。私は、将来様々な方と接する仕事に就きたいと考えています。そのためにも、今回のこの体験はとても充実したものであり、ありがとうございました。

センター試験カウントダウン!

今どきの大学選びはどうすればいいの?



保護者に向けた

Q&A

推薦入試の対策はいつから行うべき? また何をしたらいい?

推薦入試には、大きく分けて「公募制一般推薦」「公募制特別推薦」「指定校推薦」の3種類の入試方式があります。方式によって基準値以上の評定平均値が必要、「小論文が課される」など出願条件が異なるため、それに合わせた個別の対策が必要になってきます。

AO入試は、受験者を大学が求める学生像(アドミッション・ポリシー)と照らし合わせて可否を決めます。高校からの推薦がなくとも受験できるのが特徴です。また推薦入試よりも面接回数が多く長い時間をかけてじっくりと「大学入学後に伸びそうな人物か」を見る傾向があります。一方、推薦入試は基本的には高校からの推薦が必要で「自己推薦入試以外」。また、成績(評定)の基準が設定されている場合が多く、「高校でどう頑張ったか」を見る傾向があります。

普段の成績(評定)が出願条件となる場合、高1・2からの日々の学習の積み重ねが評価の対象となります。つまり日頃の学習そのものが対策となります。一般的に、小論文対策は高2後半から、志望理由書や面接対策は高3夏休み明けから始める子どもが多いようです。 ※ベネッセコーポレーションホームページより引用